

カムイワッカ地区における取組の進捗状況について

トピック

1. カムイワッカ部会の開催状況

- ・ 2026年1月14日にカムイワッカ部会（第23回）を開催。今年度の事業報告および前年度に掲げた重点項目の進捗評価や来年度の事業計画について協議を行った。来年度の事業概要とスケジュールを合意。詳細な実施計画は本会議で承認を得ることとした。

2. 2026年度の事業計画（マイカー規制、湯の滝事業）について

- ・ 来年度もカムイワッカ現地の混雑緩和と駐車場対策としてマイカー規制を継続する。実施期間は8日間に短縮。運行体制は昨年と同様。
- ・ 湯の滝事業は、本実施2年目として継続する。今年度の収支状況（大幅な赤字決算）を踏まえ、料金体系の見直しを提案し、合意を得た。

3. 道道の延伸を受けた取り扱い

- ・ 硫黄山登山口手前までの区間の落石対策工事が完了し、通行区間が延伸される予定。これに伴い、硫黄山登山道の特例利用申請は不要となる。
- ・ 登山口の使用方法については、登山者向けの駐車は待避場を使用する方向で道路管理者と協議中。閉鎖中の登山道の利用再開は、知床ヒグマ対策連絡会議の決定に委ねる。

4. カムイワッカ部会、カムイワッカ協議会のあり方について

- ・ カムイワッカ部会の決定に基づいて事業を行う協議会（知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会）の決算が赤字見込みであり、安定的な運用に不安含みな状況。
- ・ 特に、アクセス事業（マイカー規制等）の継続が困難。アクセスコントロールや観光2次交通など広域的な課題への期待もあるが、現行の部会の取扱い範囲や実行体制では対応困難。部会の取り扱い範囲や事業実施体制について再考が必要。

1. カムイワッカ部会の開催状況

会議名：カムイワッカ部会（第23回）

開催日：2026年1月14日（水）14:00～16:30

場所：斜里町産業会館 2F 大ホール

議事次第：

- (1) 2025年度の事業実施結果について
- (2) 道道知床公園線における工事の進捗とゲート設置について
- (3) 2026年度事業の実施方針
- (2) カムイワッカ地区の利用のあり方と今後の協議予定について
- (3) その他

2. 2026年度の事業計画（マイカー規制、湯の滝事業）について

【全体スケジュール】

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
道道知床公園線 (知床五湖ゲート～カムイワッカ)		冬期 通行止め	6/1(月)9:00～10/1(木)11:00					工事のため閉鎖 冬期通行止め	
カムイワッカ 湯の滝	利活用促進事業		湯の滝 利用不可	7/1(水)～9/30(水) (92日間)					
	マイカー規制と アクセス方法			マイカー利用 (バス運行なし)	マイカー 規制 シャトル バス	マイカー利用 (バス運行なし)			
自然センター～知床五湖間 路線バス増便					4日間 8/12(日)～15(木)	3日間 9/20(日)～22(日)	知床五湖の渋滞対策 を別途実施		
知床五湖ゲート 警備員配置		※現時点では未定							
硫黄山 登山道の利用		※現時点では未定							

【カムイワッカ湯の滝等利活用促進事業】

詳細：資料2-3（別紙）2026年度カムイワッカ湯の滝等利活用促進事業 計画（案）

- カムイワッカ湯ノ滝のぼり（アクティビティ）の実施期間は7/1(水)～9/30(水)の92日間を予定。本格運用の2年目として、前年度に掲げた重点項目の進捗評価を行い、その結果を反映させた事業運営を実施する。
- 2025年度は大幅な赤字決算の見込みであり、現行の協力金では事業継続が困難。利用者の安全性や満足度を損なわない水準を維持するため、料金体系の見直しを実施した。

【交通アクセス関連事業】

- カムイワッカ現地の混雑緩和と駐車場対策として、マイカー規制を継続する。実施期間は運営経費の観点から8日間に短縮する。運行経路や運行スケジュールは概ね昨年度を踏襲する予定。
- 知床五湖の渋滞緩和を目的とした自然センター～知床五湖の路線バス増便事業を継続する。来年度のシルバーウィークは最大9連休となるため、8月（4日間）に加え9月（3日間）の計7日間の実施を予定。

【知床ディスタンス！キャンペーン】

- 自然公園法の改正に伴う野生動物への餌付け・接近禁止のルール普及と連携を図りながら、継続して実施予定。

3. 道道の延伸と登山口の利用について

- 硫黄山登山口手前までの区間の落石対策工事が完了し、新ゲートが設置された。また、通行区間の延伸により、次年度からは硫黄山登山道の特例利用申請は不要となる。新ゲートの位置（通行止め区間）に係る案内については、ホームページによる周知のほか、五湖ゲート等における看板により周知予定。
- 登山者向けの駐車スペースについては、登山口海側の退避場（待避場①②）の利用が可能。なお、車を置いて登山される方へのお知らせ・誘導のため、当該スペースに掲示等を行う予定。
- なお、ヒグマ事故の影響により閉鎖中の硫黄山登山道の利用再開時期は、知床ヒグマ対策連絡会議の決定に委ねられる。
- 令和8年度以降も落石対策工事や知床大橋梁補修工事等が継続予定。そのため、五湖ゲートからの冬季通行止め期間は、平年より1か月早い10月初頭からを予定。



4. カムイワッカ部会のあり方（課題提起）

① 経緯

カムイワッカ部会は、知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の個別部会として、以下の事業を担当している。

- (1) 幌別以奥の自動車利用適正化対策
- (2) カムイワッカ湯の滝の利用
- (3) カムイワッカ～硫黄山登山口の道路利用
- (4) その他目的達成に必要な活動

また、会計を有する「知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化連絡対策協議会（以下、協議会）」が、本部会で決定した事業の実行機関としてカムイワッカ部会の下に位置付けられている。もともと協議会は、マイカー規制の調整・実行機関であったが、2020年よりカムイワッカ湯の滝の制度化・有料化が図られた際に名称を変更し、両事業の事務を一括的に実施する体制に移行した経緯がある。

② 課題

カムイワッカ湯の滝の利活用推進事業は本格実施に移行し、利用者負担を主な財源としながら自律的な運用体制を構築する必要がある。一方、マイカー規制を中心としたアクセス事業については以下の理由から今後の継続が困難な状況である。

- カムイワッカ湯の滝において予約制・上限人数の設定を行っていることから、車両規制の必要性が薄れる一方、従前のような運賃収入が期待できないこと。
- 乗車人数が限定されている一方、運行経費は高騰しており、採算性が悪化し、協議会全体の収支も赤字となっていること。

こうした事情を背景に、従前は最大40日間実施していたマイカー規制期間は8日間まで減少し、構造的な赤字事業となっている。現状の体制を放置した場合、①マイカー規制事業の終了 ②利用者負担の高騰 ③協議会会計の慢性的な赤字とカムイワッカ湯の滝事業への影響などが顕在化する公算が高い。

一方、公園内の2次交通、公共交通の充実が観光課題として重点的な取組みが求められているほか、ヒグマの安全対策や利用適正化の観点からもアクセス事業への期待や要望が高まっている。カムイワッカ地区においても道路工事の進捗等により利用環境が大きく変換する可能性もある。25年以上蓄積してきたマイカー規制事業のノウハウが失われる懸念もある。

しかしながら、こうした課題に関する検討や事務実施は、カムイワッカ部会（と協議会）の取り扱い範囲を大きく超えるものであり、現行の実行体制と収支状況を鑑みても担える状況にない。

③ 今後

もとより、交通に関する諸課題やディスタンスキャンペーンなどの普及事業は自治体をまたいだ広域的な取組みであり、カムイワッカといった特定地区の部会での協議には馴染まず、新たな取組みなども実施困難である。このような認識のもと、親会である適正利用・エコツーリズム検討部会において以下の点について検討をお願いしたい。

- 国立公園内外の交通アクセス、普及啓発などの広域課題に関する課題や検討の場のあり方
- これらの決定を実行する実行体制のあり方

現在、カムイワッカ湯の滝等利活用促進事業については、2025年度から2027年度までの3年間で第1フェーズと位置付けている。今後の当部会のあり方についても、2027年度末までに結論をだすことが望ましいと考えている。